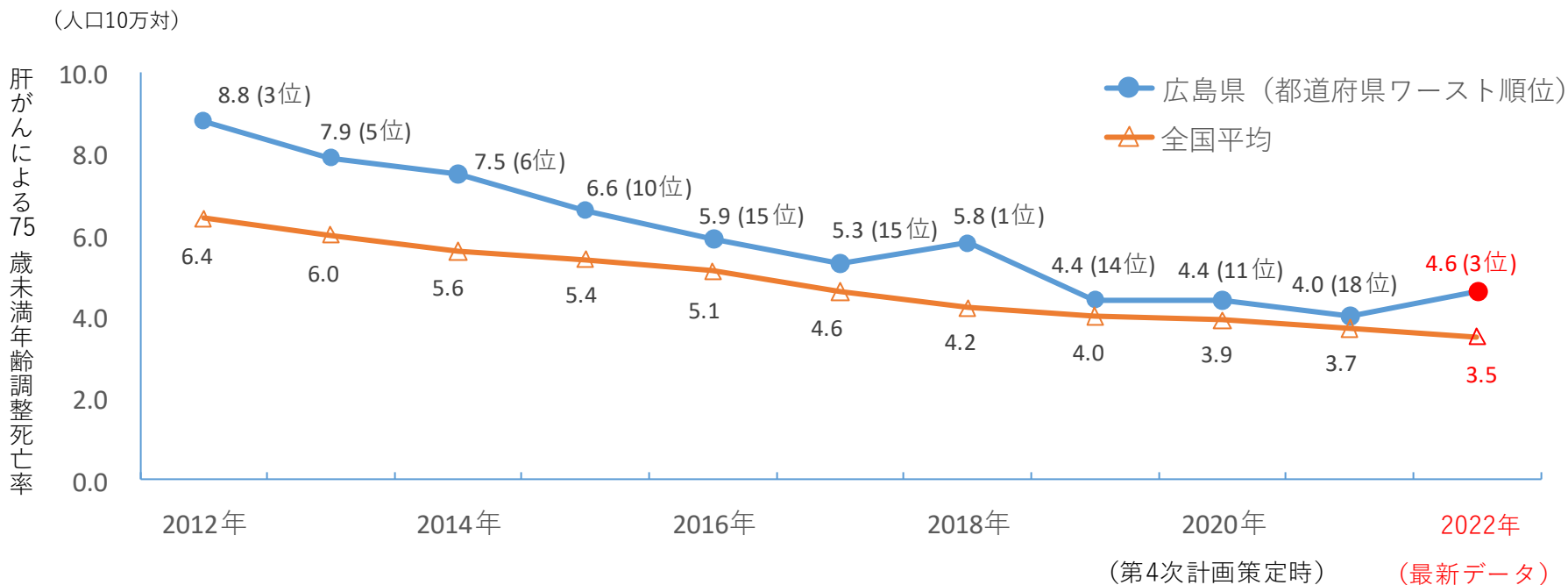


# 第4次広島県肝炎対策計画の進捗状況について

資料1

計画を着実に実行し、成果を上げるため、「注視する指標」及び「モニター項目」をもとに、進捗状況について評価を行った。評価の結果、現時点で直ちに計画を見直す必要性は認められず、引き続き、目指す姿の実現に向け取組を加速させていく。

注視する指標	目標値	計画策定時	実績	達成見込
【全体目標】 肝がんによる75歳未満年齢調整死亡率	[R8] 全国平均以下	[R2] 4.4 (全国平均3.9)	[R4] 4.6 (全国平均3.5)	努力を要する

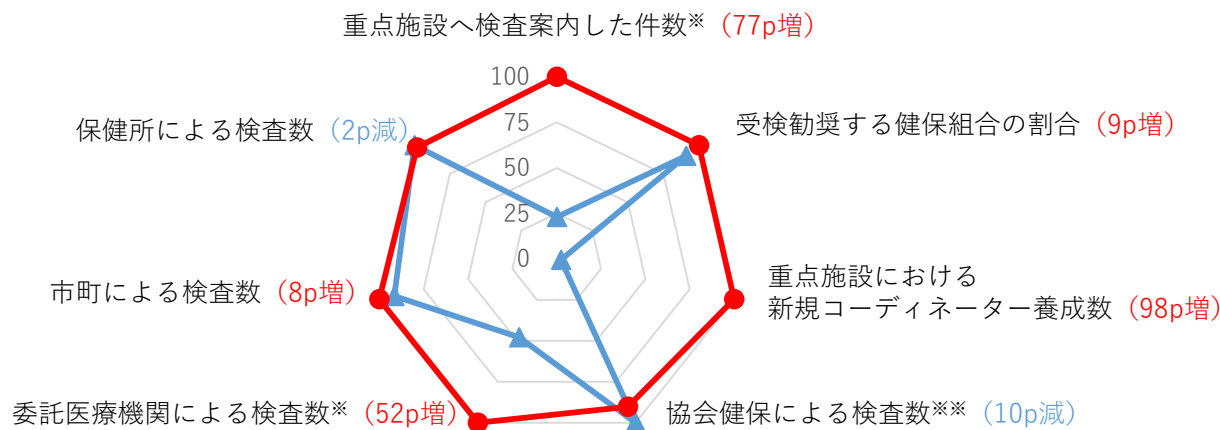


## 【評価】

- 最新データでは目標値との乖離が大きくなったものの、過去10年間の死亡率の減少度合いは、依然として全国を大きく上回っている（広島県：0.42ポイント減/年、全国：0.29ポイント減/年）。
- また、次頁以降に示すとおり、「早期発見」及び「早期の治療介入」に係る指標値は、概ね計画策定時から改善傾向にあるとともに、多くのモニター値が前回データより増加している。
- 以上のことから、引き続き、計画に掲げる取組を着実に遂行していくこととする。

注視する指標	目標値	計画策定時	実績	達成見込
【早期発見】 肝炎ウイルス検査を受けたことがある者の割合	[ R8 ] B型：70% C型：60%	[ R4 ] B型：57.6% C型：46.8%	[ R5 ] B型：58.1% C型：50.5%	比較的順調

【注視する指標に関連するモニター項目におけるデータ比較（今回● 前回▲）】



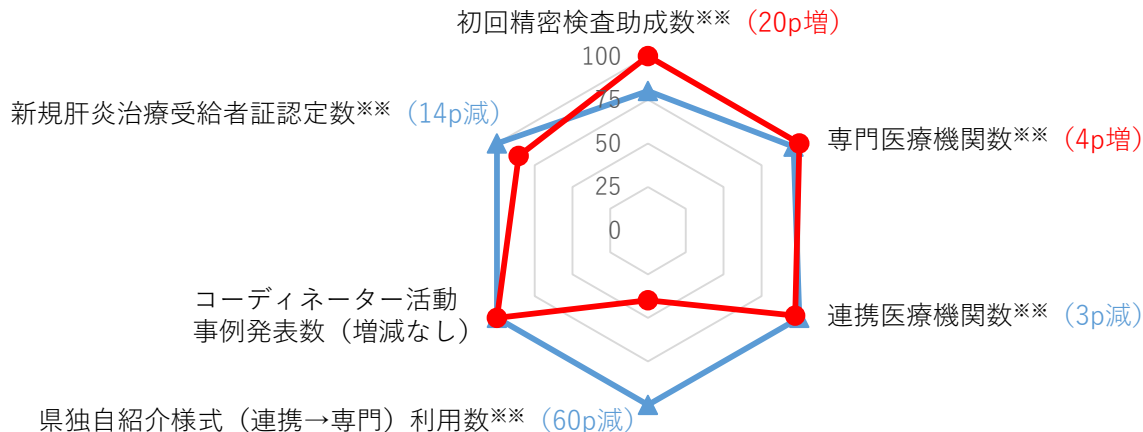
【評価】

- 検査を受けたことがある者の割合は、B型、C型ともに着実に増加している。
- モニター値では、特に第4次計画の重点的取組である「職域へ検査案内した件数」や「職域における新規コーディネーター養成数」が増加しており、アウトカムにつながり始めている。
- 今後、高齢者施設に対する取組も強化していく必要がある。

(最新データ：※ 令和6年1月末現在、※※ 速報値)

注視する指標	目標値	計画策定時	実績	達成見込
【早期発見・早期の治療介入】 治療導入時から肝硬変と診断される者の割合	[ R8 ] B型：15% C型：20%	[ R2 ] B型：17.0% C型：22.4%	[ R5※ ] B型：19.5% C型：22.6%	比較的順調

【注視する指標に関連するモニター項目におけるデータ比較（今回● 前回▲）】



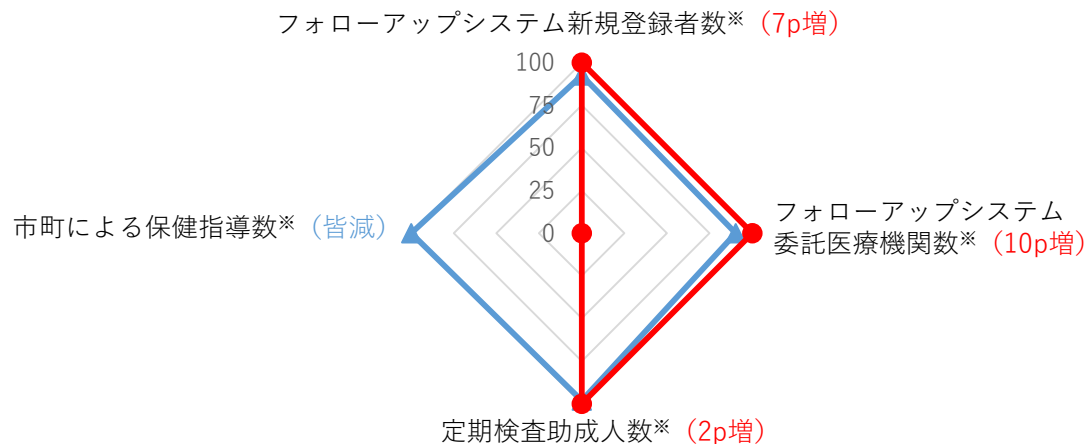
【評価】

- 感染後30年以上経過し、病態進行のリスクが高まっている潜在キャリアが多い中、治療導入時から肝硬変と診断される者の割合は、B型で10%台、C型で20%台前半に抑えられている。
- 今後、県独自紹介様式の利用促進を図り、連携医療機関から専門医療機関への紹介を増やしていく必要がある。

(最新データ：※ 令和6年2月16日現在、※※ 令和6年1月末現在)

注視する指標	目標値	計画策定時	実績	達成見込
【早期の治療介入】 定期受診により病態進行の有無を確認する者の割合	[ R8 ] B型：40%	[ R2 ] B型：28.8%	[ R5 ] B型：36.1%	比較的順調

【注視する指標に関連するモニター項目におけるデータ比較（今回● 前回▲）】



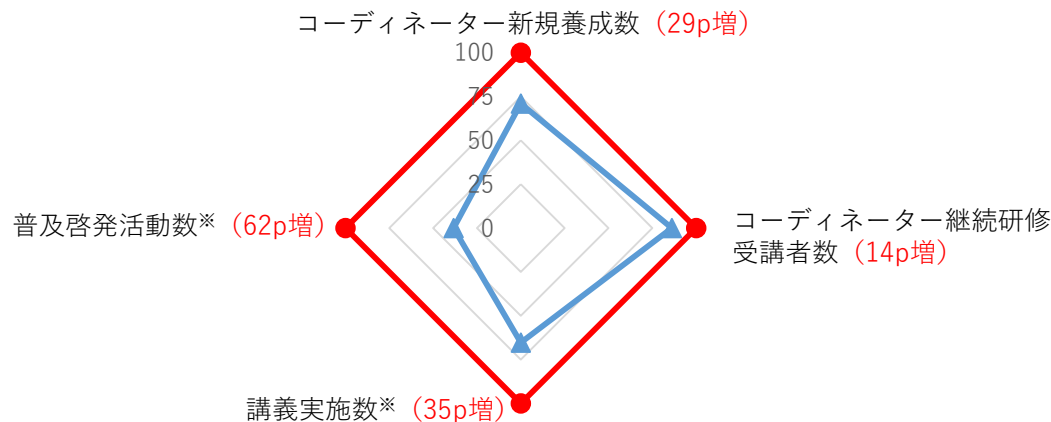
【評価】

- 定期受診している者の割合は、着実に増加している。
- 対象者が多く、十分に受診勧奨・保健指導できない市町に対し、優先順位付けによる合理化を図っているが、今年度これまでに実績はない。
- 市町に対しては担当者会議等を通じ、改めて指導の徹底を促すとともに、今後、第4次計画の重点的取組である医療機関からの受診勧奨にも取り組んでいく。

(最新データ：※ 令和6年1月末現在)

注視する指標	目標値	計画策定時	実績	達成見込
【普及啓発】 肝炎ウイルスに関する正しい知識の認知度	[ R9 ] 一般：60% 偏見差別：50%	[ R4 ] 一般：40.6% 偏見差別：29.4%	[ R5 ] 一般：37.6% 偏見差別：30.7%	努力を要する

【注視する指標に関連するモニター項目におけるデータ比較（今回● 前回▲）】



【評価】

- 各モニター値が増加し、取組のアウトプットは出始めているものの、正しい知識の認知度は、一般、偏見差別ともに依然として目標値との乖離が大きい。
- 今後、人材育成や普及啓発活動については、量的拡大だけでなく、アウトカムを意識しながら、より戦略的に行っていく必要がある。

(最新データ：※ 令和6年1月末現在)